

高山ダム 管理開始以来、2番目の規模となるダム流入量を記録

淀川水系名張川の水資源機構の管理する高山ダム流域では、台風21号に伴う総雨量が400mmに達し、ダムへの流入量は最大2,294m³/sを記録しました。これは、昭和44年から管理している高山ダムでは2番目に大きな流入量の洪水でした。

この洪水に対して、高山ダムでは国土交通省近畿地方整備局淀川ダム統合管理事務所と協同し、特別防災操作*を実施し、ダム下流の^{ありいろ}有市水位観測所において、水位を最大約1.9m低減（推定）し、道路の冠水時間を2.5時間低減し、通行止めの時間短縮に務めました。

※『防災操作』とは、大雨などによりダム湖に流れ込む洪水の一部を貯水池に貯め込み、洪水を小さくして、ダム下流の河川に流すことを言います。

また、『特別防災操作』とは、下流河道の整備状況を勘案し、防災操作実施後の貯水容量に余裕があると判断した場合には、ダムの洪水調節容量をより効果的に・効率的に活用し、貯留量を増やして放流量を低減させることで下流の被害を軽減すると操作のことです

※今回の発表は速報値であり、今後の調査等により数値等が変わることがあります。

平成29年10月24日

国土交通省 近畿地方整備局 淀川ダム統合管理事務所
独立行政法人 水資源機構 木津川ダム総合管理所

発表記者クラブ

学研都市記者クラブ

問い合わせ先

独立行政法人水資源機構 木津川ダム総合管理所 副所長 ^{ふくだ} 福田

住 所：三重県名張市下比奈知2811-2

電 話：0595(64)8961(代表)

国土交通省 近畿地方整備局 淀川ダム統合管理事務所

防災情報課 課長 ^{なかむら} 中村

住 所：大阪府枚方市山田池北町10番1号

電 話：072(856)3131(代表)

高山ダム 木津川（有市地点）の水位を約1.9m低減

台風21号の接近により、10月18日15時頃より降り始めた降雨は、淀川水系名張川の高山ダム上流域では、22日20時から21時の1時間の雨量が最大28mmを記録し、総雨量は400mmに達しました。

この降雨による出水に対し、22日18時00分にダムへの流入量が洪水量（毎秒1,300立方メートル）に達したため、防災操作を開始しました。

今回の防災操作の概要

	流域平均総雨量	ダムの減水効果が最大となった時刻	同時刻におけるダムへの流入量	同時刻におけるダム流下量	ダムに貯留した量
高山ダム	400mm	平成29年10月23日 1時40分	毎秒2,294m ³ /s	毎秒1,008m ³ /s	毎秒1,286m ³ /s

高山ダムにおける管理開始以降の最大出水記録

	記録年月日（原因）	総雨量	最大流入量
高山ダム	S57.8.1（台風10号）	451mm	毎秒2,765m ³ /s

この防災操作では下流河川の状況、木津川本川の状況、ダムの貯水容量等を考慮し、淀川ダム統管理事務所と連携し、ダム下流の浸水被害軽減のための特別防災操作を行いました。

この結果、ダム下流の有市水位観測所付近では、高山ダムによる洪水の貯留によりダムが無い場合に比べて河川水位を最大約1.9m低減（推定）し、国道の水没時間を8時間から5時間半に短縮することに努めました。

高山ダムでは、今後も治水・利水の両面でダム管理に万全を期し、ダム効果発現に努めて参ります。

高山ダム下流位置図

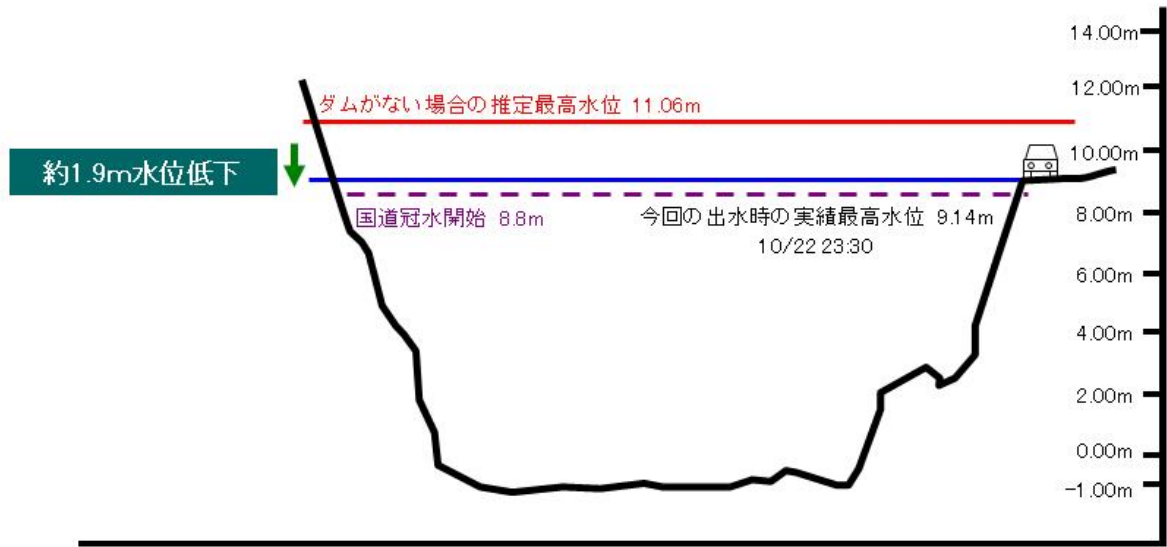


淀川流域平面図



高山ダム下流河川の状況

最小流下能力地点の有市地点(木津川39.8km地点)の水位低下効果



ダムによる水位低減効果は約1.9mと推定されます。

※写真は平常時同程度水位時の状況



平常時の有市地点の状況



平成29年10月23日 7時頃の有市地点の状況

高山ダム貯水位の状況

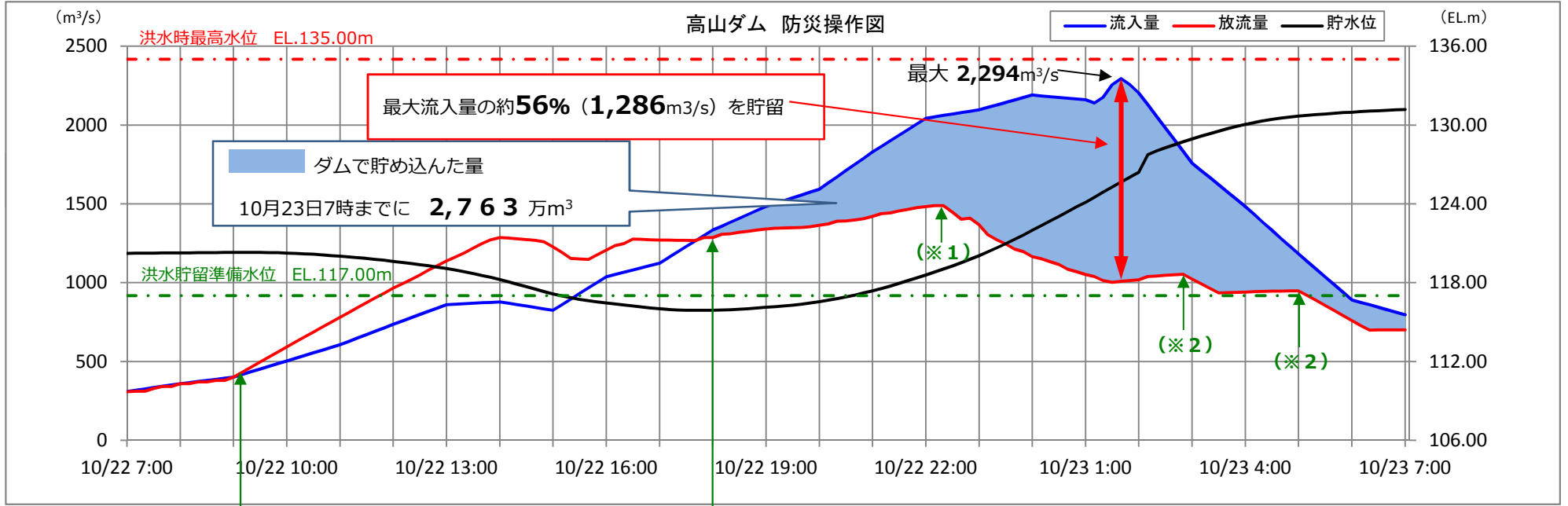
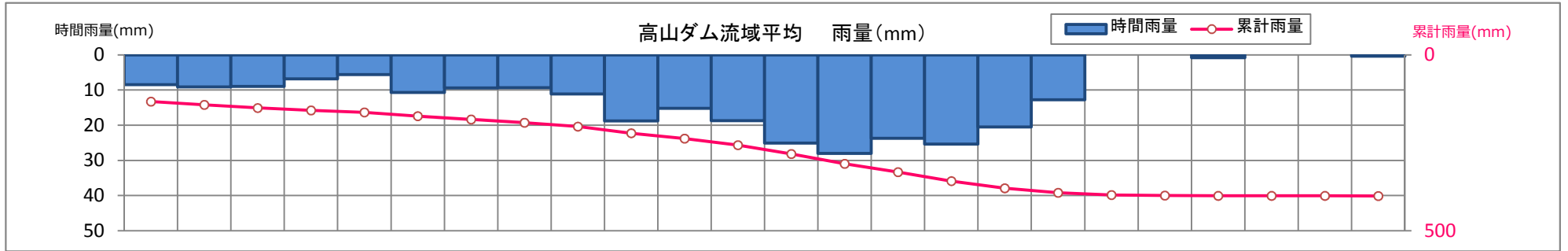


洪水調節前の22日17時頃のダム堤体上流面



洪水調節終了後23日7時頃のダム堤体上流面

高山ダムの防災操作



事前放流 9:10~放流開始 (最大で1,286m³/s)
(流入量より放流量を多くし、洪水を貯める容量を確保)

洪水調節開始

(※1) 有市地区の洪水防御のための操作開始

(※2) 淀川三川 (木津川、宇治川、桂川) 合流地点の洪水防御のための操作開始

高山ダム の概要

■高山ダムの諸元

ダム型式：アーチ重力式コンクリートダム
 堤体積：約213.9千m³ 堤高：67.0m
 堤頂長：208.7m 湛水面積：2.6km²
 流域面積：615.0km²
 竣工：昭和44年度 管理開始：昭和44年8月



高山ダム全景

■高山ダムの目的

1. 洪水調節

洪水被害を軽減するため、最大1,300m³/sから調節を開始し、最大1,800m³/sを放流する。

2. 不特定かんがい等

木津川沿岸の既成農地3,300haの既得用水として、青蓮寺ダムからの補給量とあわせて、下流大河原地点においてかんがい期に12m³/sを確保するため、半旬平均で最大4.8m³/s補給すると共に、下流河川の環境保全等のための流量を確保する。

3. 新規利水

阪神地区の水道用水として5.0m³/sを供給する。

4. 発電

関西電力(株)が設置した高山発電所で、最大出力6,000kWの発電を行う。(最大使用水量14m³/s)

■貯水池容量配分図

